

Title	著作目録
Sub Title	Bibliographie des écrits de M. Saku Sato, dressée par Makoto Maruyama
Author	丸山, 信(Maruyama, Makoto)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1967
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.23, (1967. 2) ,p.353- 370
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	佐藤朔先生還暦記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00230001-0353

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

著作目録

- A 著書
- B 翻訳書
- C 書物の一部
- D 新聞雑誌発表のもの

A 著書

- 馥郁タル火夫ヨ 第一詩集(編) 大岡山書店 昭和二年
- 世界文豪読本 ボオドレエル篇(編) 第一書房 昭和十三年
- フランス文学素描 青光社 昭和十五年
- 戦後のフランス文学 世界社 昭和二十三年
- ボオドレエル 新潮社 昭和二十三年
- ボオドレエル覚書 講談社 昭和二十四年
- 二十世紀のフランス文学 北隆館 昭和二十五年
- 知性の文学 河出書房 昭和三十一年
- セーナ河畔のみぎひだり 章文社 昭和三十三年
- ボードレール芸術論の形成(学位論文) 昭和三十六年(未刊)

B 翻訳書

- コクトオ 芸術論 厚生閣 昭和五年(昭和二十七年人文書院刊)
- コクトオ 雄鶏とアルルカン 山本書店 昭和十一年
- シャルドンヌ 結婚 第一書房 昭和十二年(昭和二十六年新潮社文庫として刊)
- アンリ・フォコニエ 馬来に生きる 実業之日本社 昭和十六年
- ボオドレエル 悪の華 第一書房 昭和十六年(昭和二十一年齊藤書店刊)
- ボオドレエル素描集 昭森社 昭和十八年
- コクトオ アメリカ人への手紙 中央公論社 昭和二十五年
- サルトル 自由への道 第一巻―三巻 白井浩司共訳 人文書院 昭和二十五―三十七年(サルトル全集 一、二、三巻)
- ルネ・ラルー 現代フランス小説 白水社 昭和二十七年
- ジイド ロベール 新潮社アンドレジイド全集十六巻 昭和二十六年
- ボーヴォワール 他人の血 新潮社 昭和二十八年(現代世界文学全集二〇)
- カミュ 不条理と反抗 人文書院 昭和二十八年(現代フランス名作集)
- カミュ、サルトル 革命か反抗か―カミュ・サルトル論争 新潮社 昭和二十八年

ジイド 放蕩息子の帰宅 新潮社 昭和三十年(新潮文庫)

サルトルル ボードレール 人文書院 昭和三十一年(サルトルル全集十
五卷)

カミュ 反抗的人間 白井浩司共訳 新潮社 昭和三十一年

ミッシェル・ジョルジュ・ミッシェル ルノワールから

ピカソ 伊紀国屋書店 昭和三十一年

カミュ 転落 新潮社 昭和三十一年(カミュ著作集一)

G・ブレイ、M・ギトン 小説の時代 若林真共訳 紀伊国屋

書店昭和三十四年)

サルトルル ボードレエル 人文書院 昭和三十五年(サルトルル著作集
七)

ランペドゥーサ 山猫 河出書房 昭和三十六年

ユゴーレ・ミゼラブル I・II・III 新潮社 昭和三十七年(世界
文学全集六、七、八)

カミュ、サルトルル他 フランス実存主義 平凡社 昭和三十七
年(世界教養全集二十四卷)

ジイド 女の学校 中央公論社 昭和三十八年

アラゴン パリの神話 河出書房 昭和三十八年

ボードレール詩集 白鳳社 昭和四十一年

C 書物の一部

ECUMES DU CIEL 馥郁タル火夫ヨ 第一詩集 昭和二
年十二月所収

ジイド アンジェルへの手紙他 高橋広江共訳「プレテクスト」金
星堂 昭和九年所収

知られざる詩人 筑摩書房ポオル・ヴァレレイ全集九卷 作家論 一五三
一八八頁 昭和十八年一月所収

ロオトレアモン 筑摩書房ポオル・ヴァレレイ全集七卷 作家論 I 二七
七二八〇頁 昭和十八年六月所収

アルベエル・カミュとカリギュラ 鈴木力衛共編 現代フランス
演劇 I 二〇九―二二五頁 昭和二十四年一月所収

ヴィクトル・ユゴー 筑摩書房ポオル・ヴァレレイ全集十二卷 作家論
II 一四三―一五八頁 昭和二十五年七月所収

靈的讃歌 筑摩書房ポオル・ヴァレレイ全集十卷 作家論 I 四十九―七十七
頁 昭和二十五年十一月所収

現代フランス詩壇 宝文館現代詩十講 十七―三十四頁 昭和二十六年三
月所収

花について詩人の語りしこと 人文書院ランポー全集一卷 二〇五
―二二二頁 昭和二十七年七月所収

十九世紀の作家の文章 河出書房文章講座六卷 外国作家別鑑賞 二六

六一二七頁 昭和三十年二月所収

青年にあたる——「物は考えよう」——社会思想研究会編 青年と自己

同出版部 昭和三十年三月 七九—一〇三頁所収

「フランス文学その他」という名の雑誌 三田にひらく三色

旗 六五—七五頁 奥野信太郎編 鎌書房 昭和三十年三月所収

ピエール・ガスカールについておよび「けものたち」、

「ガストン」、「猫」(訳)ガスカール短篇集 けものたち・死者の時

岩波書店 昭和三十年十二月所収

序文およびコクトー、シャルドンヌ 講談社現代世界文学講座六

巻 現代フランス篇 昭和三十一年二月所収

実存主義と文学 河出書房現代哲学講座六巻 文学と哲学 昭和三十一年

三月所収

ボードレールと青年作家 慶応義塾百年記念論文集 文学 昭和三十

三年十一月所収

ボードレール ラ・ファンファルロ(訳) 筑摩書房世界文学大系

三十三巻 三七—三八八頁 昭和三十四年七月所収

カーズ・ダルモン(訳) 紀伊國屋アポリネール全集 六三五—六七二頁

昭和三十四年十一月所収

ブルトン・スーポー 磁場(抄)、ポンジュ 物の味方

(抄)、ゴル 土地なしジャン(抄) 平凡社世界名詩集大成フラ

ンス IV 昭和三十四年十一月所収

フランス詩史 I 平凡社世界名詩集大成フランス I 四三—四三〇頁

昭和三十五年六月所収

ジャン・コクトー マルセーユの幻影(訳) 集英社世界短編文学

全集七巻 フランス文学二十世紀 一六一—一六九頁 昭和三十七年十月所収

ボードレール ラ・ファンファルロ(訳) 集英社世界短編文学全

集六巻 フランス文学十九世紀 一七八—一〇三頁 昭和三十八年一月所収

サルトル 奇妙な友情(訳) 筑摩書房世界文学大系八十八巻 五—九十

一頁 昭和三十八年四月所収

サルトル(解説) 筑摩書房世界文学大系八十八巻 三六—三七七頁 昭和三

十八年四月所収

サルトル アメリカの個人主義と画一主義ほか 人文書院

サルトル全集十巻 昭和三十九年九月所収

ラシーヌについて 人文書院ラシーヌ戯曲全集十巻 昭和三十九年十一月

所収

久保田さんとオスロ 久保田万太郎回想 一八五—一八七頁 池田弥三郎

等編 中央公論社 昭和三十九年十一月所収

アタリー(訳) 人文書院ラシーヌ戯曲全集十巻 三〇五—三六七頁 昭和四十

年一月所収

カミュ 平凡社世界大百科事典五巻 二九九頁 昭和四十年四月所収

コクトー 平凡社世界大百科事典八巻 五八〇—八一頁 昭和四十年九月所収

モラリストの小説家 マニー現代フランス小説史 七十一—八十八頁

講談社 昭和四十年九月所収

シャルドンヌ 平凡社世界大百科事典十巻 七〇七頁 昭和四十年十二月

サルトル 奇妙な友情 (訳) 集英社世界文学全集二十五巻、サルトル、

ニザン 昭和四十年所収

靈的讃歌、ヴイクトル・ユゴー (訳) 鈴木信太郎、佐藤正彰編 ヴ

アレリー ヴァリエテ 人文書院 昭和四十一年三月所収

サン・ドニ講演、わが劇場 (訳) 鈴木信太郎、佐藤正彰編 ヴアレリ

ー ヴァリエテ 人文書院 昭和四十二年三月所収

カミュ、ゴル、シャルドンヌ、シュルレアリスムの各頂

新潮社世界文学小辞典 昭和四十一年五月所収

芥川竜之介『或る阿呆の一生』について 旺文社文庫 昭和四

一年十月所収

D 新聞・雑誌等発表のもの

1 〈文学・評論・翻訳等〉

ジャン・コクトオ 『文芸耽美』 昭和二年

シャルル・ボードレエル Dandy (訳) 『仏蘭西文学其他』 一巻一号

昭和三年一月 十一—十三頁

ギイヨム・アポリネール「聖アドラタ」(訳) 『仏蘭西文学其

他』 一巻二号 昭和三年二月 二十八—三十頁

ジャン・コクトオ詩抄 (訳) 『仏蘭西文学其他』 一巻三号 昭和三年三月

一〇—十一頁

ジャン・コクトオ「眠れぬ夜」(訳) 『仏蘭西文学其他』 一巻五号

昭和三年五月 十二頁

フィリップ・スウポオ「着色写真」(鳥巢公訳) 『仏蘭西文学其他』

一巻五号 昭和三年五月 二十一—二十七頁

ジャン・コクトオ「職業上の秘法」(訳) 『仏蘭西文学其他』 一巻

六号 昭和三年六月 一頁

イヴン・ゴル「無線電話機」(鳥巢公訳) 『仏蘭西文学其他』 一巻六号

昭和三年六月 二十四頁

レエモン・ラディゲ「花を売る少女」(鳥巢公訳) 『仏蘭西文学其

他』 一巻六号 昭和三年六月 二十四頁

音楽欄 エリック・サティ(鳥巢公) 『仏蘭西文学其他』 一巻六号 昭

和三年六月 三十七頁

ギイヨム・アポリネール 男女倶楽部の奇遇(鳥巢公訳) 『仏

蘭西文学其他』 一巻七号 昭和三年七月 二十六—二十七頁

ジャン・コクトオ「コント」(訳) 『仏蘭西文学其他』 一巻八号 昭和

三年八月 十三頁

アルテュール・ランボオ ジャン・コクトオ(訳) 『仏蘭西文

学其他』 一巻八号 昭和三年八月 十三頁

マルク・シアガル（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』一巻八号 昭和三年八月
四十五頁

レエモン・ラディゲ「大詩人に与へる助言」（訳）『仏蘭西文学其他』二巻九号 昭和三年九月 一頁

ロベル・ド・モンテスキウ「骨董商の祈禱」（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』一巻九号 昭和三年九月 九頁

フェルナン・レジェ（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』二巻九号 昭和三年九月 三十七頁

ブレエズ・サンドラル「象狩り」（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』一巻十号 昭和三年十月 六十七頁

ストラヴィンスキイの「アポロン」（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』一巻十号 昭和三年十月 三十七頁

アルテュール・ランボオ「ゆうぐれの演説」（訳）『仏蘭西文学其他』一巻十一号 昭和三年十一月 五頁

アレイ・ロオランサン「動物詩集」（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』一巻十一号 昭和三年十一月 十六頁

フィリップ・スウポオ「或る黒人の話」（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』一巻十二号 昭和三年十一月 二十一―二十三頁

ジャン・コクトー「詩と詩論」二輯 昭和三年十二月 一―三十一頁

アンドレ・ブルトン『NADYA』（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』一巻十二号 昭和三年十二月 一頁

ジャン・コクトオのデッサン集（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』一巻十号 昭和三年十二月 一〇―十二頁

アルテュール・ランボオ「災禍」（訳）『仏蘭西文学其他』一巻十二号 昭和三年十二月 十六―十七頁

anecdotes コクトオとスウポオ（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』二巻一号 昭和四年一月 二〇―二十一頁

イヴァン・ゴル「モンパルナス停車場」（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』二巻二号 昭和四年二月 八―九頁

あるアンプレッション 『仏蘭西文学其他』二巻三号 昭和四年三月 十七頁

アンドレ・ブルトン DADA 二つの宣言書（訳）『詩と詩論』三輯 昭和四年三月 五十三―五十五頁

アンドレ・ブルトン「新しき精神」（訳）『仏蘭西文学其他』二巻三号 昭和四年三月 二十四頁

ウジエヌ・アトジエ等 PHOTOGRAPHIE（鳥巢公訳）『仏蘭西文学其他』二巻五号 昭和四年五月 十八―十九頁

ノオト 「椎の木」昭和四年五月 九頁

ジャン・コクトオ OPERA 抄（訳）『詩論』昭和四年五月 一〇〇―一〇二頁

ジャン・コクトオの詩 『詩論』昭和四年六月 三十六―三十八頁

ギイヨム・アポリネール 『詩と詩論』四輯 昭和四年六月 一九二

一一四頁

シモノ・ラテル「ジャン・コクトオと語る」(訳)『詩と詩論』
四輯 昭和四年六月 一九六一—一九八頁

アンドレ・モオロア「今日の文学と若い人達」(鳥巢公訳)

『仏蘭西文学其他』二巻七号 昭和四年七月 一頁

ジャン・コクトオ「職業の秘密」(訳)『詩と詩論』五輯 昭和四
年九月 五五—六十五頁

アンドレ・ブルトン「ナジア」(訳)『文学』一号 昭和四年十月
七十四—八十三頁

アンドレ・サルモンの詩(訳)『詩神』昭和四年十月 七十頁

フジタ嗣治(海外消息)『文学』二号 昭和四年十一月 九十六—一〇五頁

ピケイとコクトオ(Tos)『仏蘭西文学其他』二巻十号 昭和四年十一月
二十九頁

ジョゼフ・ケッセル「ジャン・コクトオの〈恐ろしい子
供〉」(訳)『仏蘭西文学其他』二巻十号 昭和四年十二月 三十七頁

アンドレ・ブルトン、ポオル・エリュアル「ポエジイに
関するノオト」(訳)『詩と詩論』七輯 昭和五年三月 六十一—七十頁

ロジェ・ヴァイヤン「アルチュウル・ランポオ——また
は人間に対する戦争」(訳)『詩と詩論』七輯 昭和五年三月 一五
七—六三頁

ジョゼフ・デルティエ「未来の ROBE のための詩——

マダム・ソニア・ドウロオネに」(訳)『詩神』昭和五年四月
七十八—八十一頁

イヴァン・ゴル「詩の世界地図 現代詩の世界的アント

ロジイ〈五大大陸〉の序文」(訳)『詩神』昭和五年五月 二〇頁

今日のアメリカ文学(鳥巢公)『詩と詩論』八輯 昭和五年六月 一九三
—二〇頁

人間の声 コクトオの新しいポエジイ・ド・テアトル

『詩神』昭和五年六月 一四二—一四六頁

ポオル・ショヴォオ「山師ジャン・コクトオ」(訳)『詩と
詩論』九輯 昭和五年十月 一五六—一六一頁

十番目のミュウズ L'esprit nouveau dec. 1930.

アチポルト・マクリツシュ「ある男のシネマハリイ・
クロスビイを憶ふ」(訳)『詩神』昭和五年十二月 二十四—二十六頁

ヴァレリイとシュルレアリスト 『詩と詩論』十輯 昭和六年一月
一四九—一五五頁

レイモン・ラディゲ「大詩人に与へる忠告」(訳)『今日の詩』
昭和六年

エスプリの食欲 L'esprit nouveau Mars. 1931.

シュルレアリスムの場合 『詩と詩論』十一輯 昭和六年四月 一九

九一〇五頁

不道徳な文学 「紀伊國屋月報」昭和六年十二月

モノロオグ・アンテュウル 「詩と詩論」十四輯 昭和六年十二月

二三三—三三八頁

一九三二年フランス文芸雑誌の展望 「セルバン」昭和七年四月

二三四—二三八頁

海外文壇消息——フランス—— 「三田文学」昭和七年八月 七十

一七二頁

海外文壇消息——フランス—— 「三田文学」昭和七年十一月 一

三七頁

芸術とスコラ哲学 「リベルテ」三号 昭和八年一月 二三—二十七頁

パリュウドを再読して 「三田文学」八巻一号 昭和八年一月 九十二

一九十五頁

マリタンの芸術論 「リベルテ」四号 昭和八年二月 五—十三頁

青年小説 「今日の文学」昭和八年三月 十五—十八頁

文学 「作品」六輯 昭和八年六月 一〇—二〇頁

蒸返されたヴェルレエヌの恋愛事件 「尺牘」六号 昭和八年六月

素人の小説 「あらくれ」昭和八年六月五日 十二—十四頁

赤と黒 「作品」昭和八年十月 九十八—一〇〇頁

C. F. RAMOZ 「もぐら捕りの道」(訳) 「行動」昭和八年十一月
七十六—八十二頁

人類と歴史 「三田文学」八巻十一号 昭和八年十一月 一三一—三四頁

新カトリック文学運動 「苑」一輯 昭和九年一月 二八—三十六頁

小説について 「今日の文学」昭和九年二月 十四—十七頁

アルテュウル・ランボオの書簡集 「レヴェン」昭和九年二月

ロレンスの手紙 「三田新聞」三二八号 昭和九年六月八日

ジアリ素描 「三田文学」十巻一号 昭和十年一月 一四六—一五一頁

フランス文学の一年間 「中央公論」昭和十年一月 二二九—三三九頁

「フロオベルの感情教育」出版記念会 「作品」昭和十年十月

一四七—一四八頁

仏蘭西文学と日本文壇との関係(座談会) 「新潮」昭和十年十

一月 一〇—一三三頁

僕はなぜフランス文学を専攻したか 「作品」昭和十一年四月

九十一—九十二頁

ジイド「大戦日記」 「新潮」昭和十一年十二月 一五〇頁

ある言葉 「団栗」創刊号 昭和十一年十二月 三十九頁

外国の俳句 「ホトギス」昭和十二年三月 六〇—六十四頁

ドレエムのハイカイ談議 「ホトギス」昭和十二年五月 五十六—

六十二頁

フランス ハイカイ(訳) 『セルパン』昭和十二年七月 五十八―五十九頁

ゴンクール賞とフェミナ賞(鳥巢公) 『セルパン』昭和十三年十月

一〇〇―一〇一頁

ピエル・ミル「プルウストとジイド」(訳) 『三田文学』昭和十三年二月 九十二―一〇五頁

ガリニエの手紙の訳 『ホトトギス』昭和十三年四月 二〇九―二一〇頁

「アジア通信」オ・ペ・ジルベエル(関水竜) 『セルパン』昭和十三年七月 一三〇―一三七頁

クラフトの詩集 『ホトトギス』昭和十三年八月 五十七頁

ジャン・プレヴォ「朝の狩猟」(関水竜) 『セルパン』昭和十三年十月 一二四―一二三頁

サルトル「嘔気」(関水竜) 『セルパン』昭和十三年十二月 一二二―一二一頁

九頁

アンリ・トロワイヤ「蜘蛛」(ゴンクール賞作品)(関水竜) 『セルパン』昭和十四年二月 一六四―一七三頁

フランス文学時評 『作品』昭和十四年四月 十四―十五頁

ベルナアル・バルベイ「朝ぼらけ」(関水竜) 『セルパン』昭和十四年四月 一六二―一六九頁

ポオル・ヴァレリ対話 作曲せんがための旧作(訳) 『采録』昭和十五年二月 五十四頁

カテユル・マンデス「前線へ戦死」した子を尋ねて(訳)

『婦人公論』昭和十五年二月 六十四―七十五頁

文学通信——フランス—— 『学芸新聞』昭和十五年三月二十五日

シャルル・ボオドレエル「レスボス」(訳) 『三田文学』昭和十二年九月 三六―四十九頁

ルイ・アラゴン「ヴァランスの会合」(訳) 『群像』昭和二十一年十二月 一三三―一四四頁

世界文学ノート 七 フランス文学篇 『世界日報』昭和二十一年七月五日

サルトルのボオドレエル論 『群像』昭和二十二年九月

戦後のフランス文学 『三田文学』昭和二十三年一月 二―四頁

コクトオの古めかしさ 『東京民報』七八三号 昭和二十三年二月七日

実存主義について 『三色旗』昭和二十三年三月 二十九―三十二頁

西欧文学の魅力 フランス篇 『世界日報』昭和二十三年四月五日

世界文化人素描 アラゴン 『東北大新聞』昭和二十三年六月十五日

フランス文学と英米の小説——スタインベックとケスラーを中心—— 『新英米文学』昭和二十三年七月 一七三―一七五頁

ボオドレエル パリの詩人 「座右室」十七号 昭和二十三年七月
十八—二十四頁

ゴビノオ伯「アデライト」(訳) 『世界小説』昭和二十三年八月 二—
十七頁

ボオドレエル「悪の華」裁判事件 『好色文学批判』一輯 昭和
二十三年九月 四十四—四十九頁

戦後文学について 『明日』昭和二十三年十月 六十一—六十三頁

ボオドレエルの晩年 『新小説』昭和二十三年十月 五十七—六十二頁

ボオドレエル「僕は愛する」(訳) 『詩学』昭和二十三年十一月五十
—五十一頁

訳詩寸感 『Keio Correspondence News』昭和二十三年十一月二十五日

フランス現代作家 『読書倶楽部』四卷一号 昭和二十四年一月 十八—
二十頁

現代フランス文学批判 『報知新聞』昭和二十四年二月十三日

誰のために書くか サルトルの文学論 『群像』四卷六号 昭
和二十四年六月 十七—二十七頁

翻訳物時代 『西日本新聞』昭和二十四年九月十三日

世界文学通信——フランス—— 『中央公論』文芸特集号 昭和二
十四年十月 一九一—一九二頁

現代文学研究 アンドレ・ジイド 『フランス語教室』昭和二十

四年十二月 三十三—三十四頁

サルトルの文学的位置 『サルトル手帖』二 昭和二十五年

現代詩とフランスの詩 『詩学』昭和二十五年一月 二十八—三十四頁

「ペスト」の意味——カミュの文学 上、下 『東京日々新
聞』昭和二十五年四月十三日および十四日

善意の文学——現代フランス文学の傾向—— 『三色旗』昭
和二十五年五月 十一—十三頁

恐るべき抽象家 「ヴァレリイ全集通信」三号 昭和二十五年

アメリカ論——その個人主義と画一主義(訳) 『群像』昭和二
十五年十一月

ボーヴォアールの「他人の血」 『文芸』昭和二十五年十一月 三十
三—三十七頁

ジイドを悼む 『産経新聞』昭和二十六年二月二十一日

最近のフランス文学 『読書人』昭和二十六年四月 十一—十二頁

文学に必要な社会性 『三田新聞』昭和二十六年四月三十日

ジイドの死(評論) 『三田文学』四十二卷一号 昭和二十六年五月 六—十頁

ボオドレエルへの接近 『河出世界文学全集月報』昭和二十六年八月
五—六頁

昭応と交感(評論) 『三田文学』四十二卷一号 昭和二十六年九月 三十八—
三十九頁

虚無から行動へ——シジフオスの現代人カミュ 「東大新聞」昭和二十六年十月二日

カミュの芝居 「慶応劇研プログラム」昭和二十六年十一月

カミュをめぐるつて (座談会) 『三田文学』四十一巻七号 昭和二十六年十一月 四十二—五十四頁

不條理の世界 カミュの問題 上、下 「新大阪」昭和二十六年十一月十四日および十五日

戦後のフランス文学 『日本読書新聞』昭和二十七年七月二日

独・仏文学 (座談会) 『中央公論』昭和二十七年十月 一七七一—九二頁

世界文学 (連載) 『新潮』昭和二十七年十月、二十八年三月、二十八年九月—十一月、二十九年三月—十二月など

教養としての文学 『三色旗』昭和二十七年十一月 十三—十六頁

近代詩における象徴 『解釈と鑑賞』昭和二十七年十二月 四十三—四十四頁

カミュ、サルトル論争 (訳) 『新潮』昭和二十八年二月 六一—三十六頁

フランス文学展望 『三色旗』昭和二十八年五月 二二—二十四頁

マルセル・ブルーストについて 『婦人公論』昭和二十八年七月 一八四—一八五頁

ヘンリー・ミラー 新しき性文学の開拓者 『新潮』昭和二十八年十二月 二〇—二二頁

十八年十二月 二〇—二二頁

小説の描く現代人 新しいユマニテの創造 「慶大新聞」昭和二十九年三月二十日

ボオドレエルとフロオベル 「河出世界文学全集月報七」昭和二十九年 一—五頁

知識人の勝利 アンリ・マルタン事件 『群像』昭和二十九年五月

サン・テックスの文学 『三笠書房現代世界文学全集月報十四』昭和二十九年五月二十日 一—二頁

作家・モデル・作中人物 『群像』昭和三十年五月 一四〇—一四五頁

作品における人間像 『三田文学』昭和三十年八月 三—四頁

ラブレールからジイドまで (世界の文藝) 『新刊ニュース』昭和三十年十一月、十二月合併号 四—七頁

J・シュペルヴィエル 日曜日の青年 (訳) 『群像』昭和三十一年一月 (無題) 六号 昭和三十五年十二月 三二—四十一頁に転載)

フランスの現代作家 三 ピエール・ガスカール 『東京新聞』昭和三十一年三月二十二日

文章を書くこと 『世界』昭和三十一年四月 一六一頁

小説とモラル 『三色旗』昭和三十一年十二月 十二—十五頁

東西サルトル騒ぎ 『文芸春秋』昭和三十三年七月

亡命と王国——アルベール・カミュの近業 「群像」 昭和三十三年九月

詩人の眼 ボードレールとアラゴン 「季節」 昭和三十三年三月

五十四—五十六頁

マルタン・デュ・ガールの死 「東京タイムス」 昭和三十三年八月二十七日

リュシアン・ベッケルのこと 「季節」 昭和三十三年九月 五十七—五十九頁

ことしのフランス文学賞 「富山新聞」 昭和三十三年十二月十一日など

フランスの文士の生活 「新潮」 昭和三十四年五月 八十一—八十五頁

コクトーとアポリネール 「世界名詩集大成月報三」 昭和三十四年十一月 五—七頁

フランス小説における新しさ 「学鏡」 昭和三十五年一月 三十二—三十五頁

創作合評 奥野、山本健吉 「群像」 昭和三十五年四月

サン・ジョン・ペルス（本年度のノーベル文学賞） 「朝日新聞」 昭和三十五年十月二十七日

ノーベル文学賞 孤高の詩人ペルス 「東京新聞」 昭和三十五年十月二十七日

ジュール・シュペルヴィエルについて（座談会）「無敵」 六号

昭和三十五年十二月 五十二—六十六頁

フロベールとモーパッサン 「河出世界文学全集月報十八」 昭和三十三年九月 一—二頁

ことばのひびき 「国文学解釈と鑑賞」 昭和三十六年九月 四—五頁

ジャン・コーの「神の情け」（本年度のゴンクール賞） 「毎日新聞」 昭和三十六年十一月二十七日

フランスのレアリスム 「学鏡」 昭和三十七年七月 五十二—五十五頁
ゴヤとボードレール 「みづえ」 昭和三十七年秋別冊三十四 八十六—八十八頁

「悪の華」の裁判事件 「本の手帖」 昭和三十七年十二月

コクトーのデッサン 「みづえ」 昭和三十八年一月 四十五—四十七頁

ボードレールとゴヤ 「芸文研究」 昭和三十八年一月 一八四—一九二頁
青春と文学 「三色旗」 昭和三十八年六、七、九、十、十一月連載

サルトルの演劇 「大阪労演関西芸術公演」 七二 昭和三十八年九月十日

ジャン・コクトーのすべて 「図書新聞」 昭和三十八年十月二十六日

西脇順三郎「ヨーロッパ文学」 「本の手帖」 昭和三十八年十月

コクトーの世界 「朝日新聞」 昭和三十八年十月十三日

知られざる詩人コクトー 「本の手帖」 昭和三十八年十一月

ゴックール賞作家ラヌーのこと 「毎日新聞」昭和三十八年十二月二十五日

サン・ジョンペルスをめぐって(座談会) 「無限」十五号 昭和三十一年二月 一四七—一六五頁

小説の結末 「文学界」昭和三十九年五月 八一—九一頁

創作合評 阿部知二、手塚富雄 「群像」昭和三十九年七月

ジャン・コクトーの世界(座談会) 「無限」十六号 昭和三十九年八月 一八六—二〇五頁

神秘の詩人コクトー 「無限」十六号 昭和三十九年八月 二〇六—二四頁

戦後のフランス詩をめぐって 「無限」十八号 昭和四十年五月 二〇六—二三頁

フランスの小雑誌 「本の手帖」昭和四十年九月 六一—四一六—三頁

サルトルの詩人論 「理想」昭和四十年十二月

フローベルの新しさ 「フローベル全集月報六」昭和四十一年五月 来日するサルトル、ボーヴォワール 「毎日新聞」昭和四十一年八月二十三日夕刊

「嘔吐」を読んだ頃 「三田新聞」昭和四十一年九月七日

サルトルとボーヴォワールへのアプローチ 「読書人」昭和四十一年九月十二日

散文と詩のことなど 「日本文学の手帖」昭和四十一年九月 一—三頁

サルトル文学の行方 「三田評論」六五三号 昭和四十一年十月 一—十八頁

精力的なサルトル氏とボーヴォワール女史 「四国新聞」昭和四十一年十月八日など

ボーヴォワールの生活と思想 「理想」昭和四十一年十月

ボーヴォワールの肖像 「マドモワゼル」昭和四十一年十一月

アンドレ・ブルトン 「本の手帖」昭和四十一年十二月

ボードレールの新しさ(座談会) 「無限」二十二号 昭和四十一年十二月 六十四—八十三頁

ボードレール作品の註釈の試み——救いがたいもの 「無限」二十二号 昭和四十一年十二月 一〇一—一〇七頁

2 へ書 評

アンドレ・ブルトン 超現実主義と絵画 「詩と詩論」九輯 昭和五年 滝口修造訳

モルトン 文学の近代的研究 「三田新聞」昭和八年一月一日 本多顕彰訳

西脇順三郎詩集 アンバルヴァリア 「椎の木」昭和八年十二月

形而上学的小説——未来のイヴ 「三田新聞」昭和十二年十一月二

十八日

ビエール・ロチ アフリカ騎兵 「三田新聞」昭和十三年八月十五日

渡辺一夫訳 言語地理学 「三田新聞」昭和十三年十一月十日

松原秀治 成瀬正一 仏蘭西文学研究 「三田新聞」昭和十四年十一月二十五日

リラダン 渡辺一夫訳 トリビュラ・ボノメ 「三田新聞」昭和十五年四月二十五日

エティエンヌ・シルソン 佐藤雄夫訳 中世ヒューマニズムと文芸復興 「三田新聞」昭和十五年十月六日

アラン 芸術論 「読売新聞」昭和十六年五月二十八日

西脇順三郎詩集 あむばるばりあ 「詩神」昭和二十三年六月

五一九頁

ゲオルギウ 河盛好蔵訳 二十五時 「読売新聞」昭和二十三年七月十二日

訳者の感想 「図書新聞」昭和二十五年六月七日

P・ユラン 吉田健一訳 野蛮な遊び 「読売新聞」昭和二十六年一月十七日

中村真一郎 現代文学入門 「日本読書新聞」昭和二十六年四月十一日

ラルー 現代フランス小説 「出版ダイジェスト」昭和二十六年十月

二二一日

J・ポーラン編 小場瀬卓三他訳 祖国は日夜つくられる 「図書新聞」昭和二十六年

十一月十二日

G・デュアメル 渡辺一夫訳 パトリス・ペリヨの遍歴 「新潟日報」昭和二十七年九月十九日

ジイドの日記 新庄嘉章訳 「早稲田学報」昭和二十八年五月 二十四―二十五頁

クロード・モルガン 石川湧訳 世界の重み 「教育」昭和二十八年五月 四十八―四十九頁

ラディゲ全集 江口清訳 「読売新聞」昭和二十八年九月十四日など

ヘンリー・ミラー 大久保康雄訳 北回帰線 「朝日新聞」昭和二十八年九月二十一日

遠藤周作 フランスの大学生 「三田評論」昭和二十九年一月 二―三頁

ジュウル・ロマンの二著 「図書新聞」昭和二十九年五月一日

山本健吉 芭蕉 「群像」昭和三十年四月 一四九頁

山とスキーの本 「日本読書新聞」昭和三十一年一月一日

世界詩人全集 「読売新聞」昭和三十一年一月十四日

H・マルクーゼ 南博訳 エロスの文明 「日本経済新聞」昭和三十三年十一月十七日

ロマン・ギャリイ 岡田、滝沢訳 自由の大地 「東京新聞」昭和三十四年三月九日

七頁

自由の大地 「東京新聞」昭和三十四年三月九日

自由の大地 「東京新聞」昭和三十四年三月九日

自由の大地 「東京新聞」昭和三十四年三月九日

世界紀行文学全集 フランス編Ⅱ 「日本経済新聞」昭和三十三年三月九日

滝口修造 幼想画家論 「三田文学」昭和三十四年四月 五月合併号 六十七・六十八頁

杉捷夫 フランスだより 「日本読書新聞」昭和三十四年七月八日
林野四郎詩集 亡羊記 「新潟日報」昭和三十五年一月二十日

白井浩司 小説の変貌、P・シモン 現代フランス文学史
「図書新聞」昭和三十五年四月二日および「東京新聞」昭和三十五年四月十三日

M・ド・ディエゲ 作家とその言語（紹介）「日本読書新聞」昭和三十六年二月二十七日

「悪の華」の新版 「本の手帖」昭和三十六年三月 フランス特集号

河盛好蔵 フランス文壇史 「東京新聞」昭和三十六年五月三日

ナタリー・サロート プラネタリウム「毎日新聞」昭和三十六年七月九日
菅野昭正訳

モーリヤック 日記1 「朝日ジャーナル」昭和三十六年七月十六日 六十一・六十二頁
村山、山崎訳

ポーヴオワール 娘時代 「読書人」昭和三十六年七月三十一日
朝吹登水子訳

渡辺一夫、鈴木力衛 フランス文学案内 渡辺一夫へ
そ曲がりフランス文学、白井浩司 入門フランス文学史
史 「東京新聞」昭和三十六年十二月十三日など

「華山」の図録を見て 「三田評論」六二二号 昭和三十八年二月 十四・四十五頁

人文書院版ボードレール全集刊行を機に（紹介）「読書人」
昭和三十八年六月二十四日

ルネ・ドランジュ サン・テグジュペリの生涯 「読書人」昭和三十一年十月十四日

ガスカール 逃亡者 「読書人」昭和三十八年十二月二日
菅野昭正訳
P・モリーリアック 内面の記録 「読書人」昭和三十九年八月十七日
杉、菅野訳

『実存主義辞典について』 昭和三十九年十一月

ポーヴオワール おだやかな死 「岐阜日々」昭和四十年四月三日

R・M・ナルベレス 現代小説の歴史 「読書人」昭和四十年八月十六日
新庄、平岡訳

河盛好蔵 文学空談 「読書人」昭和四十年十二月六日
P・ソレルス 公園 「読書人」昭和四十一年五月三十日
岩崎力訳

3 へ随筆その他

近信二つ 「リベルテ」三号 昭和八年一月

私信 「作品」昭和十一年三月 一〇九一・一〇九頁

秋窓雜記 「三田新聞」昭和十一年九月二十八日

輿論調査 「科学知識」昭和十四年十二月 一六〇頁

鎌倉山旭ヶ丘 「三田文学」十六卷八号 昭和十六年八月 一一四—一二五頁

魔性の声 「三田新聞」昭和十六年八月十五日

めをと池 「三田文学」十七卷八号 昭和十七年八月 一二六—一二七頁

パンの靴をはいた子供 「フレンド」昭和二十三年一月 三十三—三十九頁

しゃべる犬 「風雪」昭和二十三年十月 五十一—五十二頁

匂いと文学 「女性線」昭和二十四年九月 六十八—七十二頁

新しい絵画アトランのこと 「美術手帖」昭和二十四年九月 三十八—三十九頁

書店随想 「組合月報」昭和二十四年十月 二—四頁

田園交響曲（映画評） 「三田新聞」昭和二十五年四月三十日

円卓時評——フランスス文化—— 「神港新聞」昭和二十五年六月二十一日

フランスとアプレゲール 「青年評論」昭和二十五年八月 五—十一頁

アトリエ訪問 駒井哲郎 「美術手帖」昭和二十六年四月 五十一—五十四頁

贅沢について 開成学園文芸部「曙光」十五号 昭和二十六年十月 三十一—三十二頁

賭はなされたについて 「映画評論」昭和二十六年十一月

サルトル「賭はなされた」——近作映画二つ—— 「毎日新聞」昭和二十六年十一月二日

映画雜観 「三色旗」昭和二十六年十二月 二十四—二十六頁

コクトオの絵本 「美術手帖」五十二号 昭和二十六年十二月 五—九頁

廿代のクレー 「美術手帖」五十二号 昭和二十七年一月 四十八—四十九頁

現代青年の肖像 「西日本新聞」昭和二十七年九月十五日

銅像のキモノ 「三田詩人」昭和二十八年一月

折口先生のこと 「三田文学」昭和二十八年十一月 八十一—八十二頁

文学者という学者 「毎日新聞」昭和二十九年三月九日

教師のらくがき 11 教師の偉大さと悲惨 「時事新聞」昭和二十九年五月十四日

あなたの心にきざす暗い影はなにか? 「芸芸」昭和二十九年七月 七十七—七十八頁

ジャン・コクトオと音楽 「音楽の友」昭和二十九年九月 五十八—六十一頁

大学の文科 「群像」昭和二十九年十月 一九八—一九九頁

詩歌の読者 『三田文学』昭和二十九年十月 六一七頁

書翰文学 『三田文学』昭和二十九年十二月 三一四頁

昔話 『三田文学』昭和三十年一月 五一六頁

オブジェ芸術 『三田文学』昭和三十年五月 三頁

三田文学と芥川賞 『三色旗』昭和三十年十月 十一—十四頁

装飾的感想 『三田文学』昭和三十一年一月 三一四頁

ミキサ—文化 『三田新聞』昭和三十一年一月十日

時間をかけること 『群像』昭和三十一年二月 一六三頁

ただいま十七人 『毎日新聞』昭和三十一年二月二十八日

戯曲と芝居 『産経新聞』昭和三十一年三月八日

ミラボー橋 『草ぐき』昭和三十一年三月 四十九—五十頁

某月某日 『日本経済新聞』昭和三十一年四月十九日

パリのカフェ 『三田文学』昭和三十一年六月 八—十頁

翻訳劇の有難さ 『新劇』昭和三十一年九月 七十七—七十九頁

コラ・ヴォーケールのこと 『ジャンソン』昭和三十三年一月

アトリエ訪問記 アルプ・アトラン・ジャコメッティ

【学鑑】昭和三十三年二月 三十一—三十三頁

靴と酒とボードレール 『酒』昭和三十三年四月 二十一—二十一頁

パリの二月 『三田評論』五七六号 昭和三十三年五月 二十二—二十五頁

旅行者の印象 『日本経済新聞』昭和三十三年八月二十三—三十三日

洗いざらい読書 『毎日新聞』昭和三十三年九月十六日

文学部の文学教育 『群像』昭和三十三年九月

モンパルナスの灯の周辺 『映画の友』昭和三十三年十月 五十四—五八頁

現代塾員の社会的地位—文学界— 『慶大新聞』昭和三十三年十一月五日

マルローの映画「希望」 『三田文学』昭和三十四年一月 六一—七頁

この人を推す4 江藤淳 『北海道新聞』昭和三十四年一月二十三—三十三日

流行について 『婦人文化新聞』昭和三十四年十一月二十日

これがパリだ 『市政』昭和三十五年一月 六十四—六十八頁

政治的事件とフランス人 『産経新聞』昭和三十五年二月一日夕刊

百二十一人の署名(隨筆) 『三田新聞』昭和三十五年一月一日

ドアの魅力 『群像』昭和三十六年二月 二〇—九頁

式辞はむずかしい 『毎日新聞』昭和三十六年四月十一日

英語の教師にのぞむこと 『信濃毎日新聞』昭和三十六年六月十九日

文学的記録映画

『群像』昭和三十六年八月 二二—二二三頁

語学ラボラトリ

『三色旗』昭和三十六年十一月 十五—十八頁

近來の快挙(福沢基金設立)

『三田評論』六〇〇号 昭和三十六年十二月 二
十四—二十五頁

同級生交歓

『草くき』昭和三十七年二月 五十三—五十四頁

コクトーの映画

オルフェの遺言 『東京新聞』昭和三十七年五
月十九日

私と外国語

『毎日新聞』昭和三十七年六月十四日

開成の思い出

『開成会々報』昭和三十七年十月 十九—二十頁

聞き上手

『PHP』昭和三十七年十一月 四十一—四十二頁

フランスの家族

『三田評論』六二二号 昭和三十八年一月 十一—十七頁

西脇順三郎先生記念論文集序文

『藝文研究』十四、十五合併号
昭和三十八年一月 四—五頁

窓

『港』昭和三十八年四月 十三—十五頁

新入生諸君に

『慶大文学部自治会々報』昭和三十八年五月二十日号

文学部改組の方向

上、下 『神戸新聞』昭和三十八年七月九日およ
び十日

厳しさこそ慶応魂

『慶応義塾新聞』昭和三十九年二月一日

旅の哀歎

『日本の旅、世界の旅』昭和三十九年三月 三十頁

シンポジウムについて

『三田新聞』昭和三十九年七月一日

教師と休暇

『三色旗』昭和三十九年八月

三田文学の人々(座談会)

『三田評論』六三二号 昭和三十九年十月 三十
四—四十九頁

人間形式について

『開成会報』創刊号 昭和四十年一月十五日

大学のヴィジョン

『塾』三卷二号 昭和四十年一月

学問の国際的変流

『三田評論』六三三—六三五号 昭和四十年二月 六一—六七頁

個性ある私大の育成

『日本教育新聞』二八四八号 昭和四十年三月十
八日

同姓のよしみ

『日本経済新聞』昭和四十年六月三十日

学費値上げ問題をめぐって(座談会)

『三田評論』六三九号 昭和四
十年六月 八一—八十二頁

このごろ

『朝日新聞』昭和四十年八月二十六日

汗の記憶

『港』昭和四十年九月 十七—十八頁

フランス革命からクルルベまで(座談会)

『西洋美術史一〇』『美術手
帖』昭和四十年十月 四十五—六十七頁

社会人と国際的教養

『政界往来』昭和四十年十一月 六十九—七十一頁

読書法さまざま

『潮』昭和四十年十二月 一六〇—一六一頁

私立大学の直面する諸問題(座談会)

『三田評論』六四七号 昭和四

十一年三月 四十三―五十一頁

大学の一般教育はどうあるべきか(座談会) 『三田評論』六五〇号

昭和四十一年六月 二〇―二十七頁

慶応義塾の研究教育上の理念(座談会) 『三田評論』六五四号 昭和

四十一年十一月 二十七―四十五頁

大学の反省 『三田評論』六五六号 昭和四十二年一月 二六―三十二頁

西脇さんの酒 『酒』昭和四十二年一月 三十八―三十九頁

追加 Dの1 文学・評論・翻訳等

詩と人生 『慶応義塾大学新聞』昭和二十八年三月二〇日

R・M・デュ・ガール逝く 『図書新聞』昭和三十三年八月三〇日

アンドレ・マルローの横顔 『朝日新聞』昭和三十三年十二月七日

カミュの死 『岐阜日々』昭和三十五年一月八日

プルーストなど――堀辰雄の西欧的なもの 『国文学』 解釈と鑑賞 昭和三十六年三月

「狂気と天才」の面白さ 『民芸の仲間』昭和三十八年八月

A・カミュ作「ペスト」(名著鑑賞) 『読売新聞』昭和三十八年九月十五日

コクトーの世界 『朝日新聞』昭和三十八年十月十三日

「ナジャ」における驚異 『本の手帖』昭和四十年十一月

Dの2 書評

サルトル 殉教と反抗 『読書新聞』昭和三十三年八月二十五日
白井・平井訳

S・ボーヴォワール 現代の反動思想 『北海道新聞』昭和三十四年五月
高橋徹訳 十三日

ボーヴォワール 娘時代 『読書人』昭和三十六年七月三十一日
朝吹登水子訳

C、書物の一部

現代フランス文学 佐野輔夫編 フランス文学 二二―二六五頁所収
毎日ライブラリー 昭和三十五年

近代詩の流れ、二十世紀の散文文学 河盛好蔵、平岡昇、佐藤
朔編 フランス文学史 二五―三〇八頁所収 新潮社 昭和四十二年一月

(註)

1、外国語の表記は、発表原文のままを使用している。

例 コクトー、コクトオ。

2、「」は発表新聞名に、「」は発表雑誌名に使用している。

(丸山 信 編)